

VII 豊かな「都」をつくる

～県内の農・畜産・水産業・林業の振興、農村活性化、脱炭素エネルギー政策、森林を護る施策を進める～

21 農業・農地・農村・食と農の振興

- (80) 農地マネジメントの推進・特定農業振興ゾーンの整備
- (81) 中央卸売市場の再整備
- (82) NAFIC教育の充実と周辺の整備
- (83) 奈良県豊かな食と農の振興条例の推進
- (84) 食品ロス削減への対応

22 畜産・水産業振興

- (85) 食肉公社の適切な運営と大和畜産ブランド力の向上
- (86) みつえ高原牧場の整備
- (87) 内水産業の振興

23 脱炭素時代のエネルギー政策

- (88) 脱炭素時代の奈良県エネルギー政策

24 森林環境管理・林業振興

- (89) 新たな森林環境管理制度・奈良県フォレスター制度の確立
- (90) 奈良県産材の安定供給及び利用の促進、
奈良の木ブランド戦略

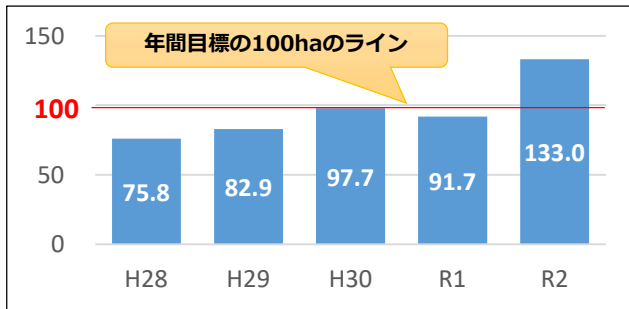
21 農業・農地・農村・食と農の振興

(80) 農地マネジメントの推進・特定農業振興ゾーンの整備

ここまで良くなってきました

担い手へ農地集積や荒廃農地の発生防止等の農地有効活用に取組み、農地マネジメントを行っています。

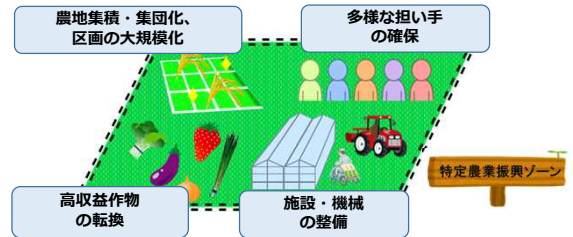
○なら担い手・農地サポートセンターによる、農地の出し手から担い手等の受け手へのマッチング面積がR2年度は100haを超えました。



○「**実質化した人・農地プラン**」の推進
地域農業の在り方と将来の担い手である中心経営体を明確化する「**実質化した人・農地プラン**」をR2年度末259集落で作成しました。

特定農業振興ゾーンの設定に努めてきた結果、2市3町7地区で設定しました。

○農地の有効活用と農業の生産性向上を図るため、農業振興施策を集中的・優先的に推進する区域として特定農業振興ゾーンを設定しました。



○特定農業振興ゾーン設定地区

市町村名	地区名	テーマ	ゾーン設定期間中の主な取組
川西町	下永東城	イチゴ、結崎ネブカの振興	園芸施設の整備
田原本町	法貴寺	スイカ採種の規模拡大 イチゴ等の振興	園芸施設、かんがい施設の整備
田原本町	八田	ナス、トマト、軟弱野菜の規模拡大	園芸施設、かんがい施設の整備
広陵町	寺戸	イチゴの産地復活 集落営農の組織化	園芸施設の整備
広陵町	百済川向	ナスの産地復活 集落営農の組織化	区画の大規模化
五條市	丹原	法人と連携した青ネギの導入 集落営農の組織化、法人化	区画の大規模化
宇陀市	伊那佐東部	大和高原宇陀ブランドによる軟弱野菜、有機野菜、花き等の生産拡大	園芸施設、かんがい施設の整備

もっと良くするために

「実質化した人・農地プラン」を実行し、農地有効活用への取組を引き続き行います。関係機関が連携し後継者不在の農地に対して、強力にマッチングを推進します。

- 農地中間管理事業を活用した担い手への農地集積 (82百万円)
- 荒廃農地の再生を行う担い手への支援 (4百万円)
- 農地の有効利用活動を行う農業委員会を支援 (59百万円)
- (新) 遊休農地調査効率化の取組を行う農業会議を支援 (1百万円)



なら担い手・農地サポートセンター(サポセン)のマッチングによる、農地の有効活用

大和郡山市、平群町でも設定予定です。スマート農業等にも取組み、特定農業振興ゾーン9地区で農業振興施策を推進します。

- 区画の大規模化、農地の利用集積・集団化、荒廃農地の解消・発生防止 (226百万円 [債務負担行為 105百万円]、R3・2月補正予算 25百万円)



- (新) 「新たな食と農」創出の検討 (1百万円)
- (新) 有機農業の推進、高収益作物の転換 (14百万円)
- 施設・機械の整備 (1百万円)
- 多様な担い手の確保 (4百万円)



令和4年度予算案 392百万円 [債務負担行為 105百万円]
令和3年度2月補正予算案 25百万円

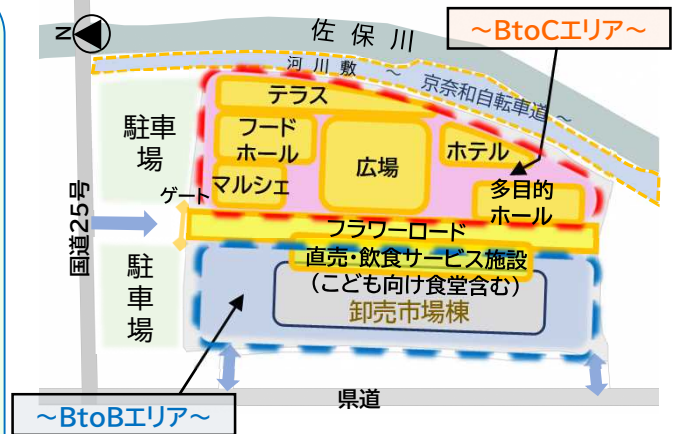
(81) 中央卸売市場の再整備

ここまで良くなってきました

「奈良県中央卸売市場再整備の基本方針」を策定し、**市場エリアと賑わいエリアを一体的に整備**することとしました。また、市場事業者との間で県との連携協力等を定めた「中央卸売市場再整備に関する基本協定」を令和3年12月に締結しました。

【基本方針の概要】

- ・市場エリアと賑わいエリアを一体的に整備する。
- ・市場エリアにおいては、市場機能の効率化・高機能化を図る。
- ・賑わいエリアにおいては、「食とともに文化・スポーツを楽しむ」華やかで賑わいのある複合拠点を整備する。
- ・中央卸売市場を核としたまちづくりを行う。
- ・まほろば健康パーク等周辺施設との広域連携や佐保川沿いの空間の活用を推進する。



中央卸売市場再整備後レイアウト(イメージ)

もっと良くするために

市場エリア(BtoB)と賑わいエリア(BtoC)の**一体的整備を行う事業者公募に着手**します。

【R4年度の取組】

- ・民間事業者から卸売機能(BtoB)と賑わい創出機能(BtoC)を一体的に再整備するアイデアを募集
- ・整備事業者募集準備
- ・市場北側用地の買収
- ・敷地測量、アスベスト調査



フードホールイメージ



【今後のスケジュール】

- R5年度 事業者募集・契約締結
- R5年度末～ 設計・工事
- R7年度 市場エリア開業(予定)
- 賑わいエリア 一部開業(予定)
- R10年度 全面開業(予定)



宿泊施設イメージ



子ども広場イメージ

令和4年度予算案 1,263百万円

(82) NAFIC教育の充実と周辺の整備

ここまで良くなってきました

学生の卒業後の進路に沿った教育内容となるよう、フードクリエイティブ学科のカリキュラムを再編しました。

カリキュラム再編の概要 (R3年度より適用)

- 必須の講義・実習に加えて、学生の開業・就職それぞれの進路に応じ、重点化(選択制)したカリキュラム構成とし、2年次にコース選択。

マスターコース

レストラン・カフェの開業を目指し、お店の開業・運営に必要な力を養う。

テクニカルコース

キャリアパスとして、レストラン・ホテルへの就職を目指し、高度な調理技術を習得する。

ゼネラルコース

キャリアパスとして、食品製造等への就職を目指し、幅広い知識と食材を生かす力を極める。

教育の充実

- 専修学校の認定を受け、最終学歴が専修学校卒となり、学生のキャリアアップにつなげました。
- 卒業生の県内開業レストラン数が8店舗になりました。

NAFICの立地を活かし、NAFICの教育機能をさらに高めるとともに、中南部・東部地域活性化のため、整備を進めます。

- 「食と農の振興」及び「中南部・東部地域の魅力」発信拠点として、R4年9月の供用開始を目指し、『NAFIC附属セミナーハウス』の整備を進めています。

の食と農振興

- ・ 料理人向け特別講習
- ・ レストラン開業を目指す料理人向け支援講習
- ・ 学生向け農業体験プログラム(修学旅行等) 等

振学興術

- ・ アспенセミナー等のエグゼクティブ向けセミナー
- ・ ガストロノミーツーリズムにかかるシンポジウム
- ・ 各種学術集会や研究発表会 等

振観興光

- ・ 明日香・藤原京・宇陀・吉野方面観光者向け宿泊
- ・ 奈良の歴史・文化に関するセミナーや体験
- ・ 交流広場の活用(展望デッキ) 等

もっと良くするために

「食」と「農」の担い手育成のため、NAFICの教育の更なる充実を図ります。

- 再編したカリキュラムに基づく、学生の希望進路に沿った学校教育の実施
- 県立磯城野高校との連携協定による人材教育の充実
- 開業促進のため、卒業生訪問などのフォローアップの充実



カリナリーアート(調理実習)



卒業生開業オーベルジュ

- ガストロノミーツーリズム世界フォーラムにおいてNAFICのPRを実施
 - BCC※(バスクカリナリーセンター)と連携し、交流事業を実施
- ※BCC・・・スペイン・バスク地方にある世界的な4年制の料理専門学校

令和4年9月より、『NAFIC附属セミナーハウス』をオープンし、「食」と「農」の魅力を発信します。

- R4年9月供用開始に向け、「NAFIC附属セミナーハウス」を整備(262百万円)
- 指定管理業者による施設の運営管理(23百万円)



NAFIC附属セミナーハウス

【施設の概要】

- ・ 研修室・・・セミナールーム大1室、小2室
調理実習室1室
- ・ 宿泊室・・・ツインルーム20室
シングルルーム20室
- ・ その他・・・カフェレストラン・交流広場 等

- セミナーハウス上段部の眺望の良い景観を活かし、民間活力を活用した集客施設の整備を検討(1百万円)

令和4年度予算案 286百万円

(83) 奈良県豊かな食と農の振興条例の推進

ここまで良くなりました

「奈良県豊かな食と農の振興に関する条例」を制定しました。(R2年4月1日施行)
県庁組織に「食と農の振興部」を設置しました。

奈良県豊かな食と農の振興に関する条例の基本理念

食と農の振興は、県民及び県を訪れる者に、安全で品質の優れた農畜水産物等及びおいしく食べる機会を提供するとともに、食のブランド化を進めることを基本とし、県民の健康増進及び豊かな食生活、子どもの健全育成並びに観光振興等の地域経済の活性化に資するよう、一体的に推進する。

食への期待

- ・健康的な食生活実践による健康長寿
- ・おいしい食事の提供による地域観光振興

農への期待

- ・健康増進に寄与する良質な食材の提供
- ・地域食材提供による地域観光ブランド化

一体的な振興

○条例に基づき、食と農に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な計画「奈良県豊かな食と農の振興計画」を策定しました(R3年4月1日)。

もっと良くするために

主要施策の推進により、**食と農の更なる振興**を図ります。

<奈良の食の魅力づくり>

NAFICとBCC※(バスクカリナリーセンター)との連携協定締結・交流実施(8百万円)

※BCC・・・スペイン・バスク地方にある世界的な4年制の料理専門大学
(新)県産食材を活用した飲食店等への誘客促進(8百万円)

食をテーマにしたイベントの開催(8百万円)
ガストロミーツーリズムの推進(245百万円)

<食を通じた健康増進と子どもの健全育成>

やさしおベジ増しプロジェクトの推進(2百万円)
学校給食における地産地消の促進(1百万円)
こども食堂の拡充(17百万円)



奈良フードフェスティバル



奈良県プレミアムセレクト
シンボルマーク

<戦略的な販売の推進>

奈良県農畜水産物ブランド認証制度の実施(2百万円)

魅力的な農産加工品の掘り起こしと改良(2百万円)

県産農産物等の輸出促進(76百万円)
首都圏における県産農産物等の販路拡大(5百万円)

<生産振興>

リーディング品目・チャレンジ品目の生産振興(22百万円)

農地マネジメントの推進(275百万円、R3・2月補正予算 7百万円)

みつえ高原牧場を活用した畜産団地の整備(11百万円)

農業研究開発センターにおける研究開発(24百万円)

令和4年度予算案 706百万円
令和3年度2月補正予算案 7百万円

(84) 食品ロス削減への対応

ここまで良くなってきました

「奈良県食品ロス削減推進計画」を策定し、令和3年4月1日に施行しました。

○消費者や事業者等への具体的な普及啓発により、自主的な取組につながるよう、施策に取り組んできました。

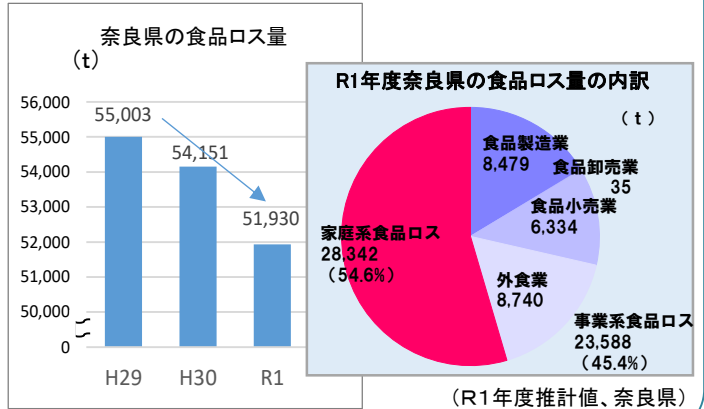
- ・食品ロス削減推進フォーラムの開催
- ・フードドライブを実施し、集まった未利用食品をフードバンク活動団体へ寄付
- ・バス車内広告、県民だより、啓発リーフレット、エコバッグ、コンビニエンスストアでの啓発POP掲示等による県民への啓発
- ・県ホームページによる情報発信



コンビニエンスストアにおける啓発POP

県内の食品ロス量(推計値)は減少しています。

○全国の食品ロスの内訳は事業系食品ロス量が半分以上を占めていますが、奈良県においては、家庭系食品ロス量が半分以上を占めています。



もっと良くするために

「奈良県食品ロス削減推進計画」に基づき施策を推進します。

食品ロスを削減するため、消費者や事業者に対する食品ロスに関する啓発を実施するとともに、食品ロス削減に取り組むフードバンク活動団体及び食品事業者等と連携した取組を推進します。

食品ロス削減に向けた普及啓発

- 消費者、事業者等に対し食品ロス問題の認知度向上のための普及啓発を実施(1百万円)
- (新)食品ロスポータルサイトを構築し、消費者、事業者、市町村それぞれに特化した情報を発信(1百万円)
- 産業廃棄物の排出抑制(環境カウンセラーの派遣)(1百万円)



食品ロス削減推進フォーラム



啓発リーフレット「食品ロスを減らしましょう」

未利用食品の活用推進

- フードバンク活動団体を支援し、こども食堂や福祉施設等への未利用食品の流通ルートを構築(1百万円)
- (新)未利用農産物等活用ネットワークを設置し、規格外農産物について、生産者とこども食堂等をマッチング(1百万円)
- こども食堂コーディネーターによる支援(3百万円)
- こども食堂等による地域づくり推進(1百万円)
- (新)「こども食堂」奈良っ子はぐくみキャンペーン、(新)こども食堂認証制度創設(12百万円)



フードバンク活動の様子



フードドライブで集まった食品

令和4年度予算案 21百万円